



- 本社 / 松江市殿町383 山陰中央ビル  
TEL0852-32-3440
- 西部本社 / 浜田市竹迫町2886  
TEL0855-22-0109
- 東京支社 / 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル17階  
TEL03-3248-1980
- 大阪支社 / 大阪市北区西天満3-13-18 島根ビル3階  
TEL06-6361-7187
- 広島支社 / 広島市中区立町1-23 どうぎん広島ビル5階  
TEL082-246-9033
- 出雲総局 / 出雲市渡橋町1228  
TEL0853-21-0019
- 益田総局 / 益田市あけぼの本町7-3  
TEL0856-22-1800
- 鳥取総局 / 鳥取市栄町401 本通りビル2階  
TEL0857-39-1188
- 米子総局 / 米子市東福原2-1-1 わこうビル2階  
TEL0859-34-5211
- 安来支局 / 安来市安来町762-1  
TEL0854-22-2069
- 雲南支局 / 雲南市木次町里方1007-3  
TEL0854-42-0062
- ひらた通信部 / 出雲市平田町2307-1  
TEL0853-27-9941
- 隠岐支局 / 隠岐の島町港町塩口63-1  
TEL08512-2-0356
- 大田支局 / 大田市大田町大田イ294-3  
TEL0854-84-9065
- 江津支局 / 江津市江津町1524-4  
TEL0855-52-2347
- 川本支局 / 川本町川本332-40  
TEL0855-72-3010
- 邑南通信部 / 邑南町矢上33-1  
TEL0855-95-1330
- 津和野支局 / 津和野町後田口473  
TEL0856-72-1678
- 境港支局 / 境港市上道町3246  
TEL0859-42-3529

# 新聞を越える。



山陰中央新報社



# 魅力ある地域を創造する



代表取締役社長  
松尾 倫 男

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行し、感染対策は個人や事業者の判断にゆだねられるようになりました。人の流れが元に戻り、経済活動も活発になっています。政府観光局の発表によると、2023年1月から半年間の訪日客は累計1,071万2,000人となり、4年ぶりに1千万人を突破しました。このことは人の流れが世界的に回復してきている証左ではないでしょうか。

一方で、地域や人々の日常に目を向けると明るい話題ばかりではありません。ウクライナ侵攻に端を発したエネルギー危機や、円安による物価高騰は市民生活に大きな負担を強めています。

また、コロナ禍によって東京一極集中を続けてきた日本の潮流に変化が生じましたが、そうした中で予測されるのが全国各地での人口維持対策、少子化対策による地域間競争の激化です。加速度的に人口が減る中、若者の県外流出をどう防ぐのか、従業員の健康や働く環境をどう良くするのか、「商品を買ってみたい」、「就職して働いてみたい」と思われるような魅力は何か、我々新聞社は地域の将来像を考え、描き、実現するために必要なことや課題の解決策を読者に示さなければなりません。

山陰中央新報は2022年に創刊140周年を迎えました。取材拠点は山陰両県に16か所と東京、広島にあり、国政や地方政治の状況、経済・産業分野やエネルギー政策、さらにスポーツや文化、地域活動の報道を通して、課題の指摘や提言を続けています。23年8月に電子版「山陰中央新報デジタル(Sデジ)」をリニューアルし、随時アップするニュースを増やすほか、ニュースやスポーツ結果の速報を充実させ、新聞紙面と両輪で地域密着ニュース・情報の発信を強化しています。料金プランも一新し、新聞を購読していない方向けにデジタル単独のプランを設けました。また、5月に本社の編集局、編成局のフロアを改装し、働きやすいレイアウトや洗練されたデザインに一新しました。外国の新聞社をイメージした明るい雰囲気の内装で、社員間のコミュニケーションを強化し、より質の高い紙面づくりにつなげていきます。

地域のリーディングカンパニーとして人口減に真っ向から立ち向かい、若者が多く暮らす元気に明るい地域をつくる責任が我々にはあります。出雲市の中心市街地で進める開発事業「出雲プロジェクト」を始動しました。第1期でスターバックス店舗、第2期で複数の商業テナントを誘致し、行政、地元経済界と連携して魅力あるまちづくりを進めます。

新聞の使命は、権力の矛盾を正し、弱者に手を差し伸べ、人々の自由と民主主義を守ることです。地域の皆さんと共に考え率先して行動する新聞社として、わたしたちはこれまで以上にデジタル化を加速し、より早くより身近に価値ある情報を発信し続けていきます。

## 沿革

1882 (M15) 5月 1日	山陰新聞社創立
1901 (M34) 11月 3日	松陽新報社創立
1942 (S17) 1月 1日	松陽新報社と山陰新聞社が合併、株式会社島根新聞社となる
	島根新聞創刊第1号を発行
	有限会社夕刊島根新聞社を設立、夕刊島根を創刊
1949 (S24) 10月 1日	夕刊島根を夕刊山陰に改題
1950 (S25) 2月15日	社名を山陰新報社に変更、
1952 (S27) 4月 1日	題号を山陰新報とする
	夕刊島根新聞社を合併
1957 (S32) 10月 11日23日	題号を島根新聞に変更
	社名を島根新聞社に変更
1964 (S39) 11月21日	本社社屋を松江市袖師町に新築、移転
1969 (S44) 7月28日	島根新聞紙齢1万号となる
1973 (S48) 3月25日	社名を山陰中央新報社に変更、
	題号を山陰中央新報とし、
	島根、鳥取両県域に取材、営業網を拡大
1978 (S53) 5月31日	松江市東朝日町に印刷工場を建設、「超高速オフセット輪転機」を導入、新聞にカラー印刷を取り入れる
	西部本社を創設
	創刊100周年を迎える
1982 (S57) 4月 1日	益田市あけぼの本町に西部本社を新築、移転
5月 1日	松江市殿町の旧島根新聞社跡地に山陰中央ビルを建設、同ビルに本社を移す
8月 1日	鳥取市西町に鳥取本社を創設
8月24日	企画記事「いのち一医療現場から」が第10回アップジョン医学記事賞を受賞
1983 (S58) 6月28日	ひかわ製作センター新輪転機が稼動
1991 (H 3) 7月 3日	紙齢2万号となる
	「香りの広告シリーズ」で日本新聞協会新聞広告賞奨励賞を受賞
1996 (H 8) 11月 1日	ホームページを開設
1997 (H 9) 8月 2日	創刊120周年を迎える
10月20日	「しまね子ども環境バンク」で日本新聞協会新聞広告賞奨励賞を受賞
2000 (H12) 8月 1日	浜田ビルが完成
2002 (H14) 5月 1日	発行部数18万部を突破
2003 (H15) 10月20日	新組版システム「新SWAN II」稼働
	浜田総局を西部本社に改め、米子総局に中海事業センターを併設
2004 (H16) 2月25日	創刊125周年を迎える
12月25日	移動編集車「サンちゃん号」導入
2006 (H18) 11月28日	超高速輪転機増設
2007 (H19) 3月 1日	題字を変更し紙面改編
5月 1日	山陰中央新報製作センター発足
8月22日	第27回「ファイザー」医学記事賞、大賞を受賞
9月18日	出雲・鳥取、石見の2版制に移行
2010 (H22) 4月 1日	紙齢2万5000号となる
2011 (H23) 9月 6日	創刊130周年を迎える
2012 (H24) 5月 1日	「環りの海」(琉球新報社との合同企画)で日本新聞協会の平成25年度新聞協会賞を受賞
2013 (H25) 10月16日	紙面の編集段数を15段から12段に変更
	製作センターに高速カラーオフセット輪転機5基を導入、既設機と合わせて2セット体制を確立
	無料会員組織「さんさんクラブ」スタート
	子ども向けの無料新聞「週刊さんいん学聞」を創刊(毎週水曜日発行)
2014 (H26) 3月 1日	新聞制作共有システム素材管理始動
3月26日	製作センターに見学者ホール「しんぶん学聞館」完成
4月 1日	「しんぶん学聞館」見学者受け入れ開始
11月 5日	発行部数18万5,000部となる
2015 (H27) 6月29日	製作センターの輪転機3基と発送関連設備を更新
11月25日	創刊135周年を迎える
2016 (H28) 1月18日	新聞制作共有システム組版始動
2017 (H29) 1月 4日	山陰中央新報デジタル「Sデジ」スタート
2017 (H29) 5月 1日	創刊140周年を迎える
2018 (H30) 4月 2日	6階フロアリニューアル
2021 (R 3) 4月 1日	「Sデジ」リニューアル
2022 (R 4) 5月 1日	
2023 (R 5) 5月15日	
8月 1日	



(松江市殿町にあった島根新聞社の社屋) (松江市袖師町に移転新築したころの社屋) (平成27年に見学者ホール「しんぶん学聞館」を併設した山陰中央新報製作センター)

## 会社概要

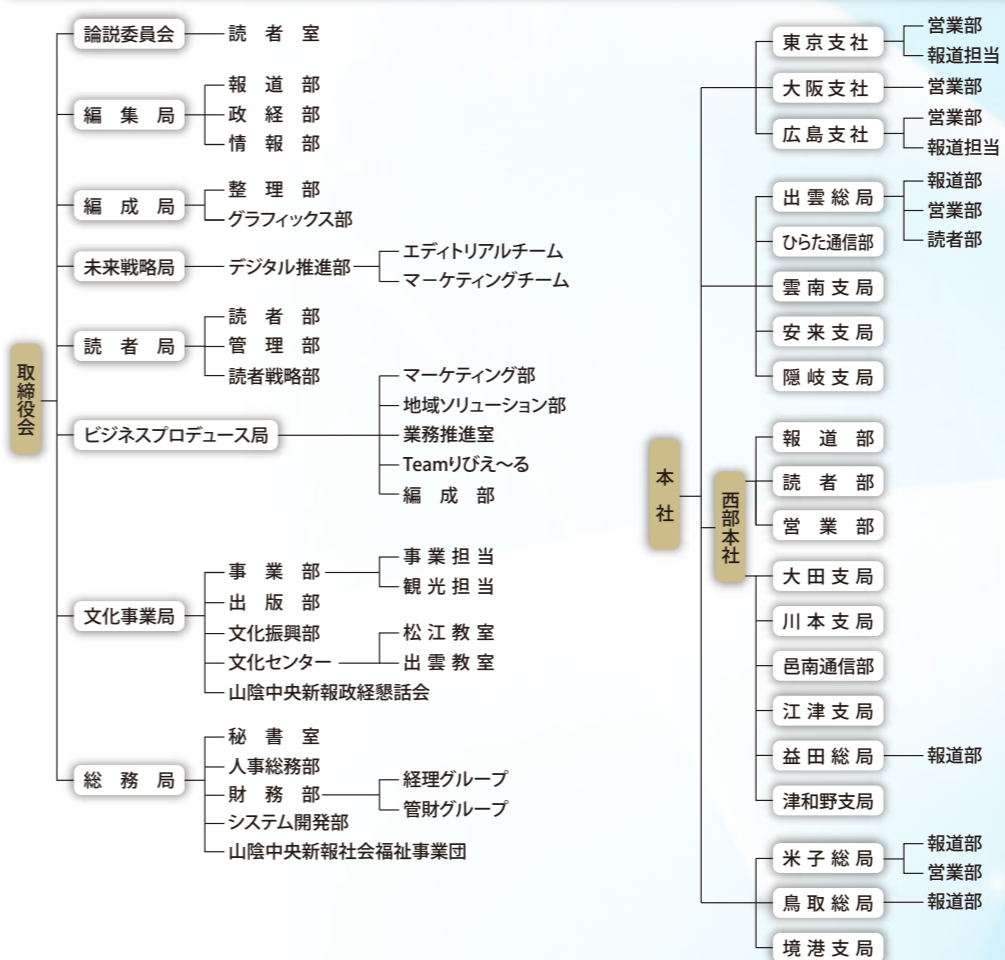
本社 〒690-8668 松江市殿町383 山陰中央ビル  
電話0852-32-3440

設立 1882(明治15)年5月1日

資本金 1億8,690万円

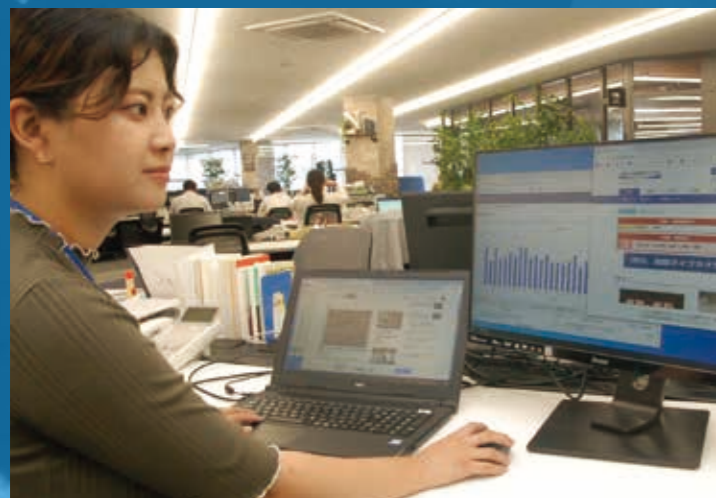
従業員 282人(2023年10月現在)

## 本社機構図



# 119万人をカバーする情報ネットワーク





## 地域とともに 私たちが伝えます

創刊以来141年、  
山陰中央新報が貫いてきたのは「地域のための報道」。  
この地に暮らす人々に寄り添い、  
日々の営みを伝え、支える存在であろう、と努めてきました。  
製作技術がいかに革新されようと、  
私たちはその信念をしっかりと受け継ぎ、情報を発信していきます。





# いつでもどこでも、確かに、役に立つ

# 山陰中央新報デジタル



山陰中央新報の会員制電子版「山陰中央新報デジタル(Sデジ)」は、鳥根、鳥取両県の「今」を知らせるニュースサイトです。手のひらで、リビングやオフィスで、より速く、より詳しく、より分かりやすく、生活に密着した情報をタイムリーに届けたいとの思いで運営しています。

## 充実の速報、独自コンテンツが満載

ニュースを翌日の朝刊に先駆けて随時配信しています。交通情報や大型選挙の開票状況、山陰両県に関わる全国ニュースなどの速報は会員のスマートフォンにプッシュ通知するほか、厳選した記事をメールで届けるニュースレターを発行しています。取材現場の様子を伝える動画、地域話題や課題を深掘りして届けるSデジ独自の記事、コラムも満載です。

## ニュース以外の生活情報も発信

鳥根、鳥取両県で開かれる祭りやイベントの情報を発信しています。飲食店や観光施設などの特典クーポンを発行し、スマートフォンに表示して現地ですとお得な特典を受けることができます。



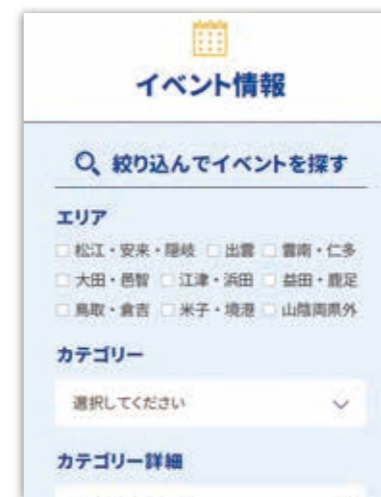
## ニュースレター

平日の1日1回、厳選した記事4本をメールでお届けする「ニュースレター」を発行しています。



## Sデジオリジナル

紙面に載っていないSデジ独自の記事を日々配信しています。



## イベント情報

山陰両県で開かれるイベント情報を発信しています。地域やジャンル、日付を絞って検索できます。



## クーポン

ニュースだけでなく、生活に役立つコンテンツも充実しています。





# 「地域主義」「地域支援」の徹底

足元の豊かさを再発見する「地域主義」、新たな豊かさを追求する「地域支援」が理念です。記者一人一人が地域に入り込んで発信する意識を徹底し、読者と双方向の紙面作りを進めています。

鳥根、鳥取両県をはじめ、東京、広島に記者を配置。基本方針に▽地域の生き残りを考える報道▽ポなど徹底した読者目線の報道▽具体的な道標を示す提言型報道—を掲げ、硬軟織り交ぜたニュースを発信しています。

2013年に琉球新報社(沖縄県)と合同で取り組んだ連載企画「環(めぐ)りの海」で新聞業界の最高賞である新聞協会賞を受賞しました。高速道路の片側1車線区間ではみ出し事故が相次いだ問題では、海外取材を含めた長期連載を展開し、解決策を国に提言。安全対策を進める機運を醸成しました。

また、最大24色のカラー面が印刷できる輪転機を生かし、迫力ある写真や見やすい図表を随所に掲載。ビジュアル効果を高めた紙面作りも心掛けています。本紙のデジタル版「山陰中央新報デジタル(Sデジ)」では、記者が取材した掲載記事を閲覧することができます。

## 選挙報道に力

社会事象や事件事故、政治、行政、住民の関心の高い生活密着型のニュース、地域社会で奮闘する人模様を描いた話題は「山陰社会面」「山陰総合面」で掲載しています。

力を入れているのが選挙報道です。国政選挙はもとより、地域住民の関心が高い市町村長選は前哨戦から詳しく伝えています。このほかにも、深く掘り下げた企画、レポートを随時掲載し、読み応えと分かりやすさを追求しています。

## 地域の話から経済、スポーツまで網羅

心温まる話題は地域別のローカル面で展開し、山陰全域のローカルニュースを一覧できる紙面を提供しています。「さんいん特報班」など地域課題に焦点を当てた読み物も掲載しています。

地元の経済情勢や企業の動向などを伝える記事は、山陰経済面に収容し、経済の動きが一目で分かるようにしています。

スポーツは、テニスの錦織圭選手(松江市出身)の報道に力を入れ、海外である四大大会に記者を派遣。バスケットボールB1の鳥根スサノオマジックは経営面を交えて多角的に伝えています。

## オピニオン力の強化

ニュースの核心を分かりやすく伝えるオピニオン力の強化に努めています。真相に迫る「ニュース追跡」のほか、社外の識者の寄稿、インタビューによる「羅針盤」「談論風発」をはじめ、ローカルからグローバルまで幅広い視点で物事を捉える企画も満載です。

## 役立つ生活情報詳しく

鳥根、鳥取両県のイベント情報を中心に、暮らしに役立つ生活情報を「生活アップデート」に集約。さまざまな催しや行事を広域的に紹介しています。



原稿執筆や打ち合わせに忙しい編集局フロア



第一線で取材する記者



記者同士の情報交換も欠かせない

## 人に寄り添い、心を豊かに

衣食住や健康、育児・教育、流行、娯楽など、暮らしにかかわる話題を硬軟取り混ぜて幅広く、分かりやすく提供しています。論壇や芸術、文芸、人文科学の今を取り上げるのが文化面。山陰の読者の知的好奇心に応えます。

## 読者参加の紙面で生まれる交流

読者投稿の「こだま」欄や、小学生から学生までの「こだま学園編」欄、心温まる話や愉快なエピソードを伝える「読者ふれあいページ」など、読者参加コーナーが好評を得ており、紙面を通じた交流も生まれています。1面に毎日掲載する「慈しみの心」は、インド哲学・仏教学の世界的権威である故中村元氏(松江市出身)が紹介したブッダの教えなどをつづり、読者の皆さんの生きる指針になっています。



地域密着取材から生まれる圧倒的ボリューム紙面

## 山陰唯一の経済週刊誌「山陰経済ウイークリー」

山陰両県で唯一の経済週刊誌となる「山陰経済ウイークリー」を発行し、地元経済の今を伝えています。1977年の創刊から45年以上の歴史があり、2020年4月には誌面を大幅リニューアルしました。表紙のデザインを一新したほか、ニュースを深く掘り下げる大型レポートや専門家によるタイムリーなコラム、誌上ゴルフレッスン、ランチスポット情報などの企画を掲載。ビジネスパーソンに役立つ誌面作りを努めています。





# より質の高い紙面づくりへ



本社ビル6階に入る編集局と編成局のフロアを2023年5月、記者とデスク、編集局と編成局との意思疎通の強化などを目的にリニューアルしました。オフィスのコンセプトデザインは、専門職の集団が「作品」をつくりあげる工房空間をイメージしています。

編集局のデスク席をフロア中心部に配置することで、編成局や各記者とのコミュニケーションを取りやすい環境にしています。フロア内各所にはグリーン色の人工植物を配するなどして、明るい雰囲気の内装になっています。



## 編集局デスクエリア

記者席からなる編集局と編成局が交わるフロア中心部に「センターシンボルジャンク」として編集局のデスク席を配置しています。天井部やパーティションには、古来、日本で愛されている藍色の「ジャパニーズブルー」を配しています。

## 編成局エリア

政治、スポーツ、地域など担当する面単位で作業機の集団を形成しています。各作業機には整理作業を行う組版機が設置され、整理記者が作業をします。窓側には誰もが自由に使えるミーティングスペースを設けています。



## 休憩カフェスペース

天井と床を含めた内装を木目調に統一し、空間全体をカフェ風にデザインしました。休憩スペース内にも人工植物を配置して、気分転換やリフレッシュしやすい雰囲気になっています。

## ソロワークブース

集中して作業ができるようにドア付きの個別ブースを複数設置しています。静かな環境での作業を可能にするとともにWebミーティングにも使用できます。隣には動画撮影が行えるスタジオがあります。



## オーブンレストステップ

6階フロアを行き交う通路に設けたディスカッションスペース。壁の一方に段差を付け、ミーティングやソロワークができる空間になっていて、誰もがリラックスして使えるようになっています。





# 山陰、日本、世界が見える紙面づくり

## 取材

本社をはじめ山陰両県の総局、支局や東京、広島支社に取材記者がおり、政治、経済、社会、スポーツなど、さまざまな分野のニュースを追っています。記者には幅広い知識と的確な判断力、豊かな表現力が求められますが、新聞の社会的な役割を実感できる仕事です。

## 報道デスク

デスクはより良い記事を読者に読んでもらうため、記者に取材の観点や手法をアドバイスするほか、原稿のチェック、手直しをします。

## 整理部

## グラフィックス部

本社記者、共同通信社から送られてくる原稿や写真が集まります。地元はもとより全世界のニュースの価値を判断し、見出しを付けて専用のパソコンで組み上げます。掲載写真の加工、図版類の作製も手掛けます。

また、最先端の技術を駆使し、山陰中央新報デジタル(Sデジ)に関する業務も受け持っています。

新聞広告はビジネスプロデュース局編成部からデータ送信され、各掲載面に組み込まれます。

## 共同通信社

世界、全国のニュースを山陰中央新報社などの加盟社に配信します。

## 高速回線



紙面をレイアウトする整理記者



印刷された新聞はキャリアで発送へと運ばれる

## 発送

## 配達

刷り上がった新聞は販売拠点ごとに機械でこん包し、待ち受けるトラックに積み込みます。その後、販売店に届けられ、一軒一軒丁寧に配達されます。

## 超高速輪転機で鮮明カラー印刷

編成局で組み上げた紙面は高速通信回線で、山陰中央新報製作センターに伝送。超高速オフセット輪転機を使って色鮮やかな紙面を印刷します。最大40ページ(カラー24ページ)の印刷が可能です。2017年4月にバックアップの輪転機3機と発送関連設備を更新し、一層の機能強化を図りました。

## 印刷



最新の印刷設備は色鮮やかな紙面を刷り上げる



# 見て 聞いて学ぶ 新聞社の仕事

山陰中央新報「まなぶんかんしんぶん学聞館」



「しんぶん学聞館」(出雲市斐川町上庄原)は、山陰中央新報を印刷する工場「山陰中央新報製作センター」(同)に併設。新聞教室や工場見学、映像・展示資料などを通じ、新聞社の仕事について学べる施設です。

1階は、山陰地方の重大ニュース紙面、印刷資料(鉛活字、木版など)、新聞印刷に使う巻取紙の実物を展示。年月日を入力すると、その日の新聞が見られる「記念日新聞コーナー」もあります。

2階には188インチの大型ディスプレイを備えた視聴覚ホールがあり、新聞社の1日に密着したビデオを上映します。ホール内で行う新聞教室では、新聞の役割や文章の書き方、報道現場の裏話などを紹介。さらに輪転機模型を使った講義もあり、印刷機械の仕組みを易しく解説します。

説明を受けた後は工場内を見学。高速で鮮明なカラー印刷を可能にしたタワー型輪転機をご覧いただけます。

## あの日あのとき『メモリー』ゾーン

### ●創刊号パネル展示

山陰中央新報のルーツである「山陰新聞」「松陽新報」「鳥根新聞」の創刊号と、鳥根新聞から山陰中央新報に題号を改めた第1号の紙面をパネル展示しています。



### ●記念日新聞コーナー

タッチパネルで年月日を入力すると、その日の新聞の1面が表示されます。現在、表示できるのは鳥根新聞創刊の1942年1月1日から88年12月31日までと2001年1月1日以降です。



### ●重要ニュース紙面展示コーナー



若槻礼次郎首相の「親任式」や竹下登氏の「首相指名」、東京五輪やくにびき国体、松江菓子博の開幕、山陰地方を襲った災害などを伝えた紙面を展示しています。

### ●印刷資料の展示

新聞は現在、高速で大量の印刷が可能なオフセット輪転機で刷り上げていますが、当社では1978年5月までは活字を使った凸版印刷方式でした。その時代の工程を伝える資料として、活字、鉛版、紙型、写真の金属版などを展示しています。



## すごいで新聞『なるほど』ゾーン

### ●カラー印刷解説用の輪転機模型

藍、紅、黄、黒の順に色を重ねるカラー印刷の仕組みを輪転機の模型で解説します。各色を印刷するローラー4組が上下に並んでいます。スイッチを入れると、ローラーの回転に合わせて紙が下から上へ動きます。そうした様子から四つの色を重ねて印刷する原理を理解してもらいます。



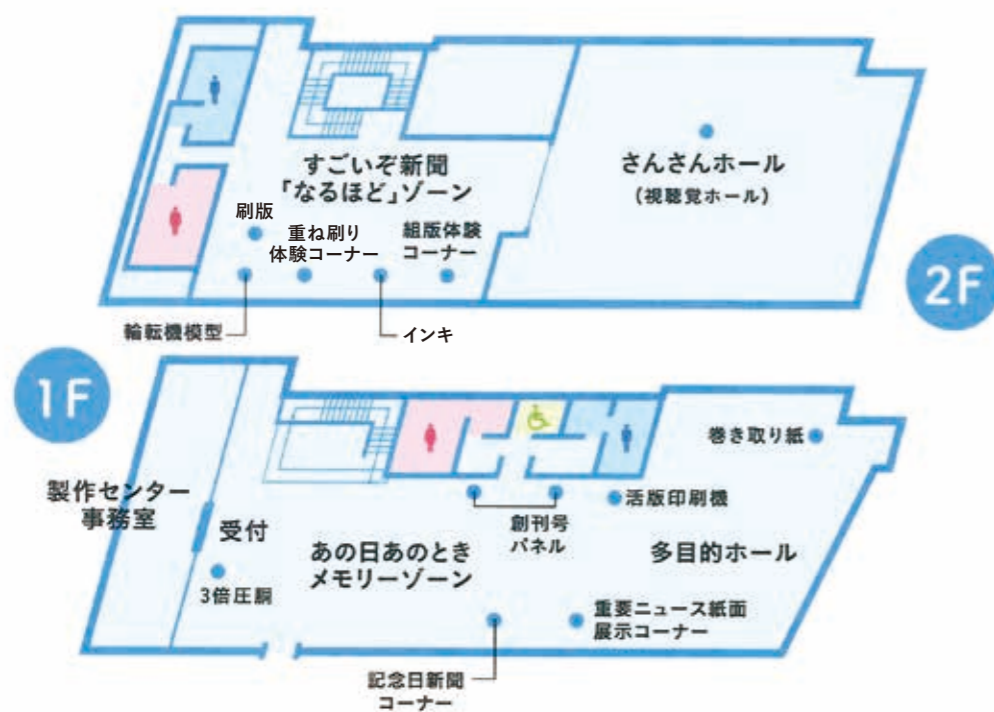
### ●さんさんホール

2階の北側にあり、広さ約180平方メートル、80人の収容が可能です。東側はガラス張りになっており、開放感あふれるホールです。47インチの液晶パネル16枚を組み合わせた188インチ(横4.2メートル、縦2.4メートル)の大型ディスプレイを備えているのが大きな特長。見学者には新聞の魅力や山陰中央新報を紹介する映像をご覧いただけます。



### ●組版体験コーナー

実際の紙面レイアウトで使っているパソコンが設置してあり、見出しづくりやレイアウトなどを体験することができます。



## 案内メニュー

1階で記念撮影した後、2階のさんさんホールで映像「つながるメディア 山陰中央新報」をご覧いただけます。その後のモデルコースは次の通りです。

- 新聞教室
- ↓
- 輪転機模型
- ↓
- 高速輪転機
- ↓
- 展示資料
- ↓
- 実際の巻取用紙

## 見学予約 しんぶん学聞館の見学は、電話での予約をお願いします。

- ◆入館時間=土・日・祝日を除く平日午前10時～午後2時30分
- ◆人数=1日2団体、1回40人まで
- ◆お申し込み、問い合わせ先

### 山陰中央新報製作センター

(出雲市斐川町上庄原1318) = 平日午前9時～午後5時 電話 0853(73)9331





# 圧倒的な情報発信力と高い信頼

## 企業・団体と連携し、地域活性化

山陰最大の発行部数を誇る山陰中央新報。山陰両県はもとより、全国のクライアントが広告を掲載しています。情報発信ツールとしてクライアントから高い信頼を得ています。

山陰両県は全国に先駆けて人口減少が進む地域です。島根県内で就職活動する若者に交通費や宿泊費を助成する「未来サポートプログラム」、子育てを応援する企画「チェンジ子育て」などを協賛企業・団体と連携して展開しています。県内の高校を卒業した後も、島根県とのつながりを大切にしながら暮らす学生たちを紹介する記事体広告を掲載するなど、定住を促進し、地域活性化を図る取り組みを展開しています。



## 暮らしに役立つサブメディア、デジタルにも力イベント開催も

地域で生活を楽しむための情報を載せた「りびえーる」は、2023年5月に出雲版が発行600号に達したのを記念し、特別号を発行。子育てをテーマにした講演会も開催しました。山陰両県を代表する企業経営者のインタビュー集「山陰リーダーズ・アイ」なども発行しています。「りびえーる」「山陰リーダーズ・アイ」はホームページも制作し、多媒体による情報発信に力を入れています。「山陰中央新報デジタル」(愛称・Sデジ)に広告枠を設け、企業・団体の情報を発信しています。



### りびえーる、いわみりびえーる

毎月第2、第4日曜日、中海・宍道湖圏域と、島根県西部で発行しているタブロイド判フリーペーパーです。グルメ、雑貨、ファッション、観光、園芸、子育てと幅広く生活情報を紹介し、女性から圧倒的な支持を得ています。



### あるっく、Story (ストーリー)

山陰両県はもちろん、近隣県の旬のスポットを紹介する観光情報紙「あるっく」、若者の島根県内定住を目的にした雑誌スタイルの「Story(ストーリー)」などを発行しています。



### 山陰リーダーズ・アイ

山陰両県の企業、団体のトップが将来の展望や地域への思いを語る「山陰リーダーズ・アイ」は、Sデジ内に特設サイトを立ち上げ、「トップのオフ」など紙面では掲載しきれない内容も紹介しています。





# 文化、スポーツ、芸術 … 地域活性化 バックアップ

## 事業

県民、読者が楽しみ、喜んでもらえる企画事業を展開しています。

3期目を迎え、1,100人を超す会員数を誇る「女性クラブYUI」はバージョンアップし、厳選した講師によるトークショーに加え、プレミアムイベントを開催。2023年夏にポップサーカス松江公演を6年ぶりに開催し、世界各国のトップパフォーマーが迫力のアクロバットや華やかなステージを繰り広げました。



女性クラブYUI



ポップサーカス松江公演

### <スポーツ事業>

スポーツ関係は「宍道湖一周駅伝競走大会」「浜田ー益田間駅伝競走大会(しおかぜ駅伝)」などの陸上競技をはじめ、小中学生を対象にした野球大会やバレーボール大会、「島根県アマチュアゴルフ選手権競技」「山陰企業団体対抗ゴルフ大会」などを開催。スポーツ振興や子どもたちの健全育成に貢献しています。



学童野球

### <文化事業>

文化関係は「日本三大茶会」の一つである「松江城大茶会」は県内外から多くの来場者を集め、「日本伝統工芸展」「再興院展」などの全国規模の大型美術展、地元の作家や子どもたちが出展する「日本の書展」「山陰子ども書道展」などの事業を展開。地域の文化、観光振興に寄与しています。



松江城大茶会

## 観光

自主企画や旅行代理店とタイアップした国内外の旅行商品を企画販売しています。出雲や米子空港からの海外チャーター便やフジドリームエアライン、日本航空などを利用した国内チャーター便も実施し、地元の空港から発着できる旅行として好評を得ています。バスツアーでは、日帰り旅行から宿泊付きの旅行など県内外の催事や花暦に合わせた旅行、ウォーキングを行程に盛り込んだ健康ツアーなど多様な旅行商品を取り扱っています。

## 文化振興

### 指定管理の重責担う —「国宝松江城」周辺の文化・観光施設を管理

#### <国宝松江城、興雲閣、武家屋敷、明々庵、赤山茶道会館>

松江のシンボル「国宝松江城」を中心に、城下町での暮らしが垣間見える「武家屋敷」、大名茶人・不昧公の残した茶室「明々庵」「赤山茶道会館」の指定管理事業を展開しています。

地域文化の伝承や振興、情報発信に貢献しているほか、関連施設と連携して地域の基幹産業でもある観光振興事業はもちろん、歴史講座やスポーツイベントなども手掛けています。



国宝松江城



武家屋敷



赤山茶道会館



興雲閣



明々庵





# 多様な情報発信に力 地方創生に貢献

## 出版

山陰の自然や歴史、文化を紹介する出版活動を展開しています。松江城をはじめ、石見銀山やたたら製鉄、出雲大社のガイド本などを発行。そのほか地元文化人の伝記や紀行本、ビジネス書など幅広い分野で後世に残る本作りを手掛け、郷土の出版界をけん引しています。自治体や企業から依頼を受け、新聞社ならではの取材ネットワークと情報の蓄積を生かし、広報誌や記念誌、社史も編集、制作しています。

### <主な出版物>

- 堀田仁助 ～蝦夷地を測った津和野藩士～
- 旅に唄あり 復刻新版
- 中村元 慈しみの心
- そりとむくり 彫刻家 澄川喜一
- 「明窓」書き写しノート(改訂版)
- 国宝 松江城～美しき天守～(改訂版)
- 令和につなぐ不味のころ
- 茶室「菅田庵」修復記念-
- 続石神さんを訪ねて
- ～出雲神話から石見の巨石信仰へ～
- こども出雲国風土記(改訂版)
- 鉄のまほろば ～山陰 たたらの里を訪ねて～
- 古事記1300年 神話のふるさと
- 山陰のゆかりの地を訪ねる
- マンガで親しむ出雲神話シリーズ・全4巻
- 空から見る 山陰の海釣り



本社の出版物

## 文化センター

山陰中央新報社文化センターは、松江、出雲の2カ所にあり、多くの受講生に親しまれています。トップクラスの講師陣が指導し「学ぶ、出会う、楽しむ」がモットー。受講生の生活スタイルに合わせ、朝・昼・夜と幅広い講座を開講し、受講生を募集しています。

工芸・書道・茶道・華道・日舞など日本の伝統的な分野から、趣味・娯楽、健康・スポーツ、音楽、料理、ビジネス・資格取得に至るまで多岐多彩。事前に講座内容を知ってもらうための無料見学・体験もできます。また、短期集中の「特別講座」や「1日体験講座」も開催しています。



季節のスイーツ&紅茶講座

## 写真販売

本社主催の野球やバレーボールなどのスポーツ大会、文化事業などで撮影した迫力ある場面や感動の瞬間を写真として販売しています。また、山陰中央新報の紙面に掲載された記事や写真を加工した額入り商品も製作し、記念として人気を集めています。



紙面に掲載された写真を販売

## 殿まちギャラリー

松江市南殿町地区の活性化を図るため、空き店舗を改装し、2002年6月にオープン。個人やグループによる絵画や写真、工芸、書などの作品展などに利用されており、市民の憩いの場所として親しまれています。ギャラリーには、陳列棚や机などの備品も完備しており、多目的な利用が可能になっています。

## デジタルサイネージ

山陰中央新報デジタルサイネージは、インターネット回線を使って山陰両県、国内外のニュースや天気予報などを、随時更新しながらリアルタイムで配信。空港や病院での企業PR、大学での人材確保など設置場所の属性に応じた広告、イベント情報などの発信もでき、速報も可能です。今後さまざまな活用法が期待されます。

現在は出雲縁結び空港、鳥根県立中央病院、松江市立病院、公立邑智病院、鳥根大学、鳥根県立大学浜田キャンパス、鳥取大学湖山キャンパス、米子鬼太郎空港で稼働しています。



出雲空港のデジタルサイネージ(電子看板)



## 圏域振興

日本海側有数の人口集積地である中海・宍道湖・大山圏域において、県境を超えた一体的な発展に向けて官民協働の連携事業を企画・運営しています。地域の優れた産品を発掘し圏域内外に発信する「山陰いいものマルシェ」や、圏域の市長会、ブロック経済協議会などとタイアップした観光PR事業など、圏域振興に取り組んでいます。



山陰いいものマルシェ(松江)



山陰いいものプレミアムマルシェ(大阪)



# 山陰最大の発行部数

## 「信頼」と「安心」を届ける販売ネットワーク

山陰中央新報は、山陰（島根県・鳥取県）最大の165,000部（2023年9月）の発行部数を誇ります。島根県内の市場占有率は7割以上で他紙を圧倒、地域ニュース満載の地元紙として絶大な信頼を得ています。

山陰両県約200店の地域に根差した販売所ネットワークを生かして、2006年8月には全販売所加盟の「山陰中央新報販売所防犯協力会」を結成。島根県や同県警と協定を結び、配達時に不審者や事故を発見した際の通報や防犯啓発、一人暮らしや夫婦だけの高齢者世帯などの安否を気遣う見守り活動を展開し、安心安全なまちづくりに努めています。

また、本紙を気軽にお試し読みいただける「試読紙キャンペーン」や、地域と連携した各種事業も展開し、より親しまれる新聞を目指しています。



### 1週間無料試読 プレゼントキャンペーン

山陰中央新報の紙面をもっと知ってほしい、手に取ってほしい、そんな気持ちから未購読家庭を対象に1週間のお試し読みを無料で行っています。お試し読みをしていただいた方にはプレゼントも進呈。新聞の魅力を知り読者になる方が相次いでいます。



### 購読受付

購読に関するお問い合わせはこちらから

フリーダイヤル  
**0120-49-2550**

（月曜～土曜：9時30分～17時30分 日・祝日は除く）

### 山陰中央新報販売所の活動

販売所は新聞を配るだけでなく、地域に対する貢献活動にも力を入れています。

各地で開催されるさまざまなスポーツ大会や清掃活動を主催しています。読者のみなさんとのふれあいを大事にしています。



# 新聞に親しむきっかけを



### コンサート事業を主催

新聞社に親んでもらうため、若い世代を中心に人気のSaucy Dogや年配の方に人気のシンガーソングライター小椋佳さんのコンサートイベントを主催。新聞読者に対してチケット先行販売やデジタル領域でも新しいコンテンツを展開し、読者だけでなく地域の方からも大好評をいただいています。



### プロスポーツ選手のトークショー開催

プロバスケットボールチーム「島根サノオマジック」の安藤誓哉選手のトークショーを読者限定、参加費無料で開催。紙面以外でも新聞社と接触してもらえるきっかけづくりを行っています。

### 新聞活用ノート

小学生に新聞に親んでもらうとともに、家庭内学習を支援しようと、2020年に作成したのが新聞活用ノートです。2021年冬に実施した「新聞活用ノートチャレンジ」は、島根県内で1,000人を超える小学生が参加し、「地域の記事や世界の記事に興味を持つきっかけになった」、「親子で新聞を読み、勉強になった」など、保護者や学校から大好評をいただいています。





# 読んで学んで ワクワクなるほど

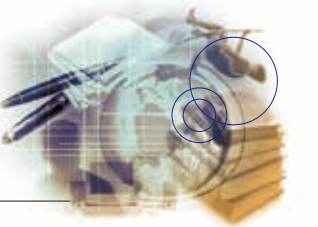


## 週刊さんいん学間

地域の宝である子どもたちの健やかな成長に新聞を役立てたいと、2014年11月5日に子ども向けの新聞「週刊さんいん学間(まなぶん)」を創刊。2023年4月から、家族で新聞に親しみ、一緒に楽しく学べるように、日曜日付本紙内の見開き4ページに体裁を一新しました。新聞のちょうど真ん中に掲載し、抜き取って保存もできるようにしました。ニュースのポイントや背景を分かりやすく解説する「ニュースなぜなに」▽各小中学校の紹介を子どもたちがつづる「まなびやレポート」▽山陰の偉人たちの歩みと功績を紹介する「さんいん偉人学」▽学習用の「小学生基礎学力アップ講座」「高校入試対策講座」▽クロスワードクイズやイラストの「投稿コーナー」など学校や家庭で役立つ話題を満載しています。



# NIE (Newspaper In Education=教育に新聞を)



## NIEで児童、生徒の学びを豊かに

NIE(Newspaper In Education=教育に新聞を)は教育現場で新聞を活用してもらい、児童、生徒の皆さんの学びをより豊かにする取り組みです。

社会への関心を深め、読解力や表現力はもちろん、最近では、情報の的確に読み解く力を育成する活動として注目されています。

活動の柱の一つは学校へのお出前授業です。NIE担当者や記者を学校に派遣し、新聞の読み方、情報の集め方、文章の書き方や手作り新聞の作成指導などを行っています。オンラインでの新聞教室も行っています。

もう一つの柱は「しまね小中学生新聞コンクール」の開催です。新聞作りを通して思考力や表現力を磨き、思いを発信してもらうことを目的に開催し、2023年で12回目を迎えました。

三つ目の柱は、紙面での展開です。本紙では児童生徒の意見発表や



新聞記者が学校へお出前授業を担当

新聞製作の場として「こだま学園編」、「元気はつらつ新聞」、「青春はつらつ新聞」、「NIEのページ」を掲載。毎週日曜には小中学生向けに「週刊さんいん学間(まなぶん)」も掲載しています。

島根県にはNIEの推進母体として行政や教育現場、新聞・通信各社や学識経験者で1995年に設立された「島根県NIE推進協議会」があり、山陰中央新報社は事務局を務めています。

新聞は学年、教科を問わず、まるごと活用できる魅力的な教材です。山陰中央新報社は活用法の相談や実践例の紹介に応じています。気軽にお問い合わせください。



新聞コンクール優秀作品は各地で展示する

## Newspaperプラス (就活生、社会人向け新聞教室)

NIB(Newspaper In Business=ビジネスに新聞を)にも取り組んでいます。社会人対象の新聞活用講座「Newspaperプラス」では、企業のニーズに合わせ、新聞記者経験のある講師や現役記者がお出前講座を行います。新聞を読むことを通じ、情報収集力、分析力、コミュニケーション力など、仕事に役立つ能力を磨きます。

自分の住む地域から世界の国々、身近な催し物から政治経済まで、新聞にはありとあらゆる情報が載っていて、めぐるだけで広く世の中を知ることができます。幅広い知識は顧客との会話の種に、大事なことをズバリと伝える新聞記事の書き方は、報告書や企画書を書くのに役立ちます。記事の中に新規事業のアイデアを見つけられるかもしれません。

企業や事業所で行う社員・職員への一般研修や新入社員、若手社員、営業向けなどの個別研修をはじめ、就職活動中の学生、現場への着任を控えた警察学校生など、社会に出る前の準備としての講座も行っています。



Newspaperプラス新聞教室







# さまざまな形で社会に貢献

## ●子どもご縁食堂

幅広い世代の人が交流し、にぎわう場を設けようと2022年10月、「子どもご縁食堂」を松江市殿町の本社近くで所有する「殿まちギャラリー」を改修し、開設しました。

新聞社が食堂を運営しながら、情報発信することで、子ども食堂の取り組みや支援の輪がさらに広がることを願って設けました。社員と地域住民がボランティアスタッフを務め、毎月第2、第4水曜日の午後5時45分から約2時間オープン。訪れた親子連れや地域の高齢者が、会話を弾ませ、夕ご飯を楽しんでいます。



## ●山陰中央新報政経懇話会

「時代を読む」「ニュースの真相に迫る」をキーワードに、島根新聞社当時の1968(昭和43)年6月、社会貢献事業としてスタートしました。現在は松江・米子・浜田・益田地区の4懇話会(会員総数約200人)を運営しています。中核事業となる講演会は、共同通信社と連携して4地区いずれも2カ月に1回(年間計24回)開催し、政治・経済・社会・文化・芸能・スポーツなど各分野の一流講師を招いています。新聞とは別の角度で真相・深層に迫る情報小冊子「政経週報」なども届けています。



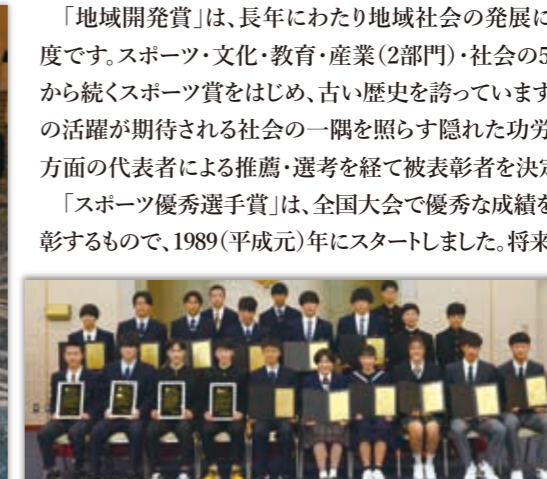
## ●山陰中央新報社会福祉事業団

1979(昭和54)年に設立。ボランティアグループの発掘・顕彰、青少年の健全育成、そして民間福祉団体への助成、被災地への救援活動など幅広い福祉活動を展開しています。活動資金は、地域の皆様から寄せられる温かい寄付によっています。義援金の受け付けはこれまでに、東日本大震災や熊本地震、西日本豪雨などで行い、日赤鳥根県支部や被災自治体を通じて被災地へ送りました。また、年末には歳末助け合い「愛のともじり」募金活動を実施し、寄せられた浄財を、福祉施設やボランティア団体などに配分しています。

## ●地域開発賞、スポーツ優秀選手賞



地域開発賞贈呈式



スポーツ優秀選手賞表彰式

「地域開発賞」は、長年にわたり地域社会の発展に尽力している人々を顕彰する制度です。スポーツ・文化・教育・産業(2部門)・社会の5賞を設けており、1956(昭和31)年から続くスポーツ賞をはじめ、古い歴史を誇っています。選考の対象は、「受賞を機に益々の活躍が期待される社会の一隅を照らす隠れた功労者」とし、行政を中心とした関係各方面の代表者による推薦・選考を経て被表彰者を決定しています。

「スポーツ優秀選手賞」は、全国大会で優秀な成績をあげた鳥根県内の中・高校生を表彰するもので、1989(平成元)年にスタートしました。将来を担う若い選手たちの大きな励みとなっており、2014(平成26)年から、国際大会や日本選手権で活躍した選手を対象とした特別表彰制度も設けました。これまでに248の団体・個人を表彰しています。

## ●山陰インド協会

山陰とインドの経済・文化交流の懸け橋として2012(平成24)年に発足した「山陰インド協会」(会長:松尾倫男山陰中央新報社社長)の事務局を担っています。同協会は、インド哲学の世界的権威で松江市名誉市民の中村元博士記念館が開館したのを機に、主にインドとの経済交流を拡大しようと組織されました。活動は、日印両国の大使館、総領事館が支援するなか、鳥根、鳥取両県をまたぐ中海・宍道湖・大山圏域の市長会や商工団体、大学、企業など産官学連携で進展しており、地方創生事業としても注目を集めています。



総会であいさつする松尾倫男会長

## ●鳥根県茶道連盟

鳥根県茶道連盟(会長:松尾倫男山陰中央新報社社長)は、松江藩松平家七代藩主松平治郷(号:不昧)の功績により、松江に息づいた「茶の湯文化」の振興組織として、2014年3月に発足し、山陰中央新報社が事務局を務めています。

会員は、県内で活動する11流派16団体の約2,800人で、茶道の継承や発展はもとより、茶道未経験者に「抹茶・お菓子のいただき方」「お点前のいろは」を教える「松江藩 ちゃのゆの学校」に講師を派遣し、後継者育成事業にも協力しています。

# ともに歩む関連会社

### <山陰中央新報セールスセンター> 松江市嫁島町1-27

創立は1977年。営業エリアは鳥根、鳥取の山陰両県全域。新聞折り込み広告チラシの取扱い業務のほか、新聞やテレビ、ラジオの総合広告代理業務、山陰中央新報本紙の普及、生活応援情報紙「りびえーる」の広告営業など、新聞関連を中心とした幅広い業務を手がけています。広告を通じてクライアントと地域をつなぐ役割を果たしています。2017年の40周年を機に、呼称を「山陰中央新報SC」としました。

### <山陰中央新報松江南販売> 松江市上乃木4丁目8-25

前身の山陰中央新報販売から分離して1997年に現社名になりました。きめ細かい読者サービスの実現を目指し、松江市の橋南地区(宍道湖の南側)に4営業所を配置。山陰中央新報の販売業務を行っています。2016年4月からは、鳥根県庁を中心とした橋北地区の一部を販売エリアとして受け持ち、松江市黒田町に支店を設け、2営業所を配置しています。地元校からの職場体験を積極的に受け入れているほか、3階ホールを開放するなど住民とのふれあいを大切に、地域と密着した営業活動を展開しています。

### <中央新報サービス> 松江市殿町383 山陰中央ビル3階

1991年に創立した山陰中央新報の販売会社。鳥取、倉吉、米子、境港から松江、出雲、雲南に10の営業所を設けています。エリアが広く環境も違うため事業、営業活動等は地域によって異なりますが、住民に愛され親しまれる地域密着型の企業を目指しています。

### <SCアドクロス> 松江市学園1丁目16-1

2017年4月に創業した総合広告会社。地域創生に結びつくコミュニケーション方法研究、地方創生事業アシスト業務、指定管理者業務、マーケティング業務、広告代理店業務、イベントプロダクション、クリエイティブデザイン、Eコマースなど幅広い分野を手掛けています。保険代理店業務も行っています。

### <山陰中央新報製作センター> 出雲市斐川町上庄原1318

山陰中央新報の印刷部門として、2008年に独立しました。本紙、別刷りの印刷をはじめ、受託印刷なども行っています。タワー型と呼ぶ輪転機はコンピューター制御によって、同時にカラー24ページを含む最大40ページの新聞を印刷する能力を持っています。最大24ページ(カラー16ページ)印刷できるバックアップ機もあります。2016年1月18日に見学者ホール「しんぶん学問館」がオープンしました。

### <山陰中央新報いわみ開発> 浜田市竹迫町2886

鳥根県石見地区で、新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・WEB等の広告、事業運営、企画提案などを中心とした事業を展開しています。私たちは街づくりをコーディネートし、地域活性化を応援しています。

### <中央ビル> 松江市殿町383 山陰中央ビル2階

### <山陰中央テレビジョン放送> 松江市向島町140-1